



肝臓がんと免疫チェックポイント阻害薬

2020年に免疫チェックポイント阻害薬のアテゾリズマブと分子標的薬のベバシズマブとの併用療法が切除不能な肝細胞がんに対して使用できるようになりました。ベバシズマブとは新しい血管の形成に関わる VEGF(血管内皮増殖因子)という物質を阻害することで、がん栄養や酸素を運んでいる血管を縮小し、がん細胞の増殖を抑える薬です。

ベバシズマブは血管に作用する薬剤のため、高血圧、創傷治癒遅延などの副作用があります。そのため手術、抜歯など出血が予想される処置を行う際は薬をお休みする場合があります。アテゾリズマブでは大腸炎、空咳、皮膚炎、口渇、甲状腺機能や、腎機能の障害などの副作用が起こることがあります。自覚症状としては、下痢、乾いた咳、白斑、皮疹、のどの渇き、倦怠感などがあります。

この治療法では従来使用されてきた抗がん剤で起こる悪心・嘔吐、脱毛、食欲不振などの副作用の頻度は少ないとされています。化学療法による副作用は重篤化を防ぐために早期発見・早期治療が大切です。普段と違う症状があらわれた際は医師・看護師・薬剤師へお伝えください。



《著者紹介》

東海大学医学部付属病院薬剤科
肝臓病教室担当
廣川岳志
新井美保
祖父江佳奈